

平成 28 年度 総合的な教師力向上のための調査研究事業

テーマ 7

民間教育事業者の力を活用した教員の資質能力向上事業

成 果 報 告 書

千葉県教育センター

目次

1 問題の所在	1
2 研究の目的	3
3 研究の方法	3
4 研究の内容	4
5 課題解決型研修の実施報告	7
6 社会体験研修を生かしたキャリア教育の実践事例	15
7 成果と今後の課題	21

本報告書は、文部科学省の初等中等教育等振興事業委託費による委託事業として、千葉市教育委員会が実施した平成 28 年度「総合的な教師力向上のための調査研究事業」の成果を取りまとめたものです。

したがって、本報告書の複製・転載・引用等には文部科学省の承認手続きが必要です。

1 問題の所在

(1) 千葉市の教育課題より

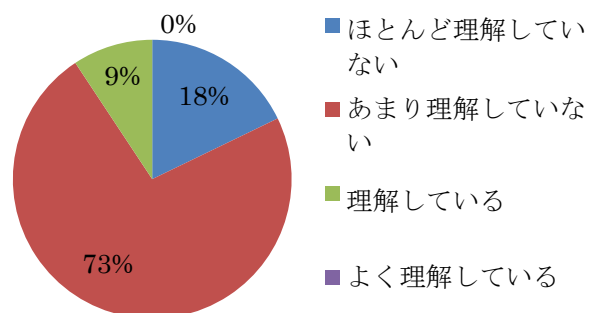
千葉市の教育に関する大綱では、次の項目を重点項目の一つとして掲げている。

○生涯を通じたキャリア教育の推進

- ・市民の生活基盤確立と都市を支える人材の育成・確保のため、経済部門等と連携し、雇用等の社会ニーズを踏まえた取組みが進むよう、職業体験や進路指導体制の充実など、教育課程でのキャリア教育の見直しを進めます。
- ・加えて、実社会に出た後に知識や技術を身に付けることができる環境を整えるなど、市民への生涯を通じたキャリア教育を推進します。

このことを学校教育において推進していくためには、キャリア教育を担う教員の資質・能力の向上を図ることが重要である。社会の進歩や変化のスピードが速まる中で、職業の多様化や技術革新等の影響による業務の自動化、グローバル化の動きなどの最新情報に触れ、子供たちが社会に出た時に必要とされている能力や資質を理解した上でキャリア教育を実践できる教員が、今必要とされている。

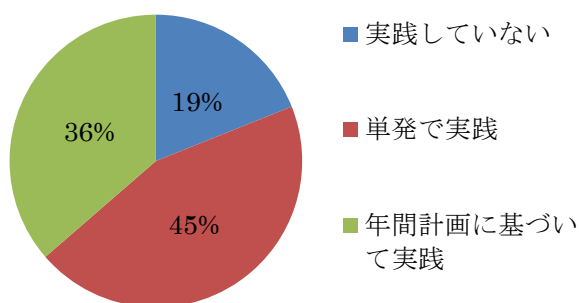
問1 キャリア教育について理解していますか



左のグラフは、平成 28 年度千葉市 10 年経験者研修受講者 124 名対象に、社会体験研修を実施する前（第 2 回研修時）に行ったアンケートの結果である。

問 1 「キャリア教育について、理解していますか」の問いに対して、「ほとんど理解していない」「あまり理解していない」を合わせると 91%にもなり、キャリア教育についての理解が低いことがわかる。

問2 キャリア教育を実践していますか

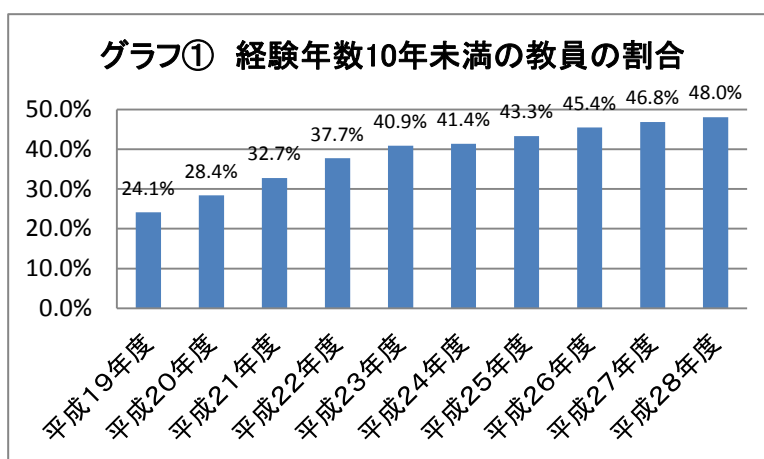


問 2 「キャリア教育を実践していますか」についても、「実践していない」が 19%みられる。実践しているとしても、年間計画に基づいて、計画的に行っている教員は 36%にとどまっており、キャリア教育の実践状況も決して高いとはいえない。

以上のことから、キャリア教育についての理解を深め、実践できるような教員を育てる必要があるといえよう。

(2) 千葉市の教員の経験年数の特徴から

本市においては教員の若年齢化が急速に進んでおり、教員経験 10 年未満の教員の割合が年々増加している。グラフ①「経験年数 10 年未満の教員の割合」に表れているとおり、平成 28 年度においては、全教員の約半数である、48%が教員経験年数 10 年未満となっている。



つまり、経験 10 年の教員は、学校においては中堅層として指導・リーダー的役割担う立場であるといえる。キャリア教育の実践においても同様であり、キャリア教育を推進できる中堅教員の育成が急務となっている。

(3) 千葉市 10 年経験者研修の現状より

千葉市 10 年経験者研修校外研修では、教師としての資質・能力の向上を目指して、次のように、「必修研修」「課題別研修」「社会体験研修」の 3 種類の研修を行ってきた。

- | | |
|---------|-----------------------------------------------------|
| ①必修研修 | … 教職員の服務とモラル、10 年経験者に求められるリーダーシップ、今日的な課題への対応についての研修 |
| ②課題別研修 | … 教科、生徒指導、教育相談、専門的職務等に関することについて、一人一人がテーマを設定して行う研修 |
| ③社会体験研修 | … 夏季休業中に、千葉市内の事業所で、3 日程度（事前・事後を含めると全 6 回）の業務体験をする研修 |

「③社会体験研修」は、民間企業や公共機関での業務を 3 日間体験するという研修である。これは、教員が異業種を体験し社会人としての成長を促すと同時に、その経験をキャリア教育として、児童生徒に還元することを目的としている。異業種の仕事を体験することは教員の仕事を見直す契機となることや、人脈が広がったりするなどの一定の効果は見られる。しかし、体験先の確保が難しいこと、研修内容が単に業務を体験するにとどまる等、体験先に内容を依存する研修となっている。また、学校現場で実践するキャリア教育とのつながりを意識した研修となっていない等の課題があがった。

そこで、研修の目的、内容等について見直しを図り、千葉市の地域経済・地域産業の状況や、キャリア教育に対する理解を深め、キャリア教育を実践するための資質や能力を身に付けることができるような、社会体験研修プログラムを実現していく必要がある。

社会体験研修の見直しを図るにあたり、本事業のテーマ「民間教育事業所の力を活用した教員の資質能力向上事業」に基づき、キャリア教育の実践において実績のある、民間教育事業者と協働して、社会体験研修プログラムの開発を実施していくことにした。

2 研究の目的

民間教育事業者の力を活用し、実践的なキャリア教育を推進することのできる教員を育成するための研修プログラムを開発する。

また、民間教育事業者がもつ、「企業とのコーディネート力」等を生かし、教員の社会体験研修の受け入れ先を開拓すると共に、社会体験研修の受け入れ先企業での標準的かつ汎用的な研修プログラムを開発する。

3 研究の方法

(1) 社会体験研修プログラムの開発

- ①キャリア教育の実践において実績のある民間教育事業者と協働して、「社会体験研修」を企画立案する。
 - ◎業務を体験するだけの研修ではなく、課題解決型の研修方法を取り入れる。
- ②「社会体験研修」の受け入れ事業所について、千葉市内の民間企業を中心に協力いただける企業を開く
 - ◎研修先として地域の事業所を確保することで、教員が地域経済・地域産業について理解すると共に、学校現場でのキャリア教育の実践につなげられるようにする。
 - ◎これまで本研修に協力いただいていた企業（イオン株式会社等）だけでなく、業種や数を増やすことで、多くの教員が多様な事業所で研修できるようにする。
- ③研修実施前には、事業所の欲する人材やキャリアステージに応じた役割、事業所の課題等についての講義・演習をもつことで、社会の現状やキャリア教育の現状について理解してから、実地研修に臨む。（6月の事前研修）
- ④各事業所において「社会体験研修」を実施する。（夏季休業期間中）
 - ◎実地体験研修後、各事業所から与えられる課題に対してグループで解決方法を考え、提案する研修を行う。
- ⑤実地体験研修実施後、研修で身に付けた力を学校現場に持ち帰り、授業等で活用する。またその後、それぞれの社会体験で学んだことを他のグループと共有することで振り返りをし、研修内容の定着を図る。（12月の事後研修）

(2) 研修プログラムの効果検証

研修プログラム実施前後に受講者からアンケートをとり、キャリア教育への理解、推進するための力量、社会の現状への認識、研修内容を現場で活用する指導力等の向上について自己分析を図る。また、改善した研修内容が持続可能なものか、受け入れ企業から負担感やメリット等の意見についても、聞きとり調査を行う。これらの検証結果を基に、次年度の研修内容を改善し、平成29年度以降の社会体験研修の見直しを図る。

4 研究の内容

(1) 民間教育事業者と協働した、社会体験プログラムの開発・運営

①民間教育事業者の決定、再委託までの流れ

千葉市において、委託募集・プロポーザル審査会を実施し、再委託先を(株) トゥワイス・リサーチ・インスティテュートに決定する。再委託契約を締結する。

②再委託の内容

- 社会体験研修プログラムの立案、実施、資料の作成
- 社会体験研修におけるファシリテーターの派遣
- 社会体験研修実施に伴う民間企業との連絡、研修内容の確認
- 社会体験研修の事前・事後における講義を行う講師の派遣
- 教員がキャリア教育を実施するための資料の作成
- 効果検証のためのアンケートの作成、集計、結果の考察

(2) 社会体験研修の目的、研修プログラムの立案

①社会体験研修の目的の明確化

キャリア教育を推進する教員の資質向上のための研修であるということの中核とし、社会体験研修の目的を次のように明確化した。

社会のニーズや職業に関する情報を確保すると共に、子供たちにとって身に付けさせたい力を明確にもつことで、キャリア教育を推進することのできる教員をめざす。

②実地体験型研修と課題解決型研修

これまでの社会体験研修では、事業所に研修内容を決めてもらい、実地での職業体験を主としていた。研修を通して、「教員以外の仕事を体験すること」「働く人の思いや願い、苦勞を知ること」「社会の仕組みを学ぶこと」と大きな成果はあった。しかし、研修で得た学びをそれぞれが学校に持ち帰り、キャリア教育の実践につなげるまでは至らなかった。

そこで今年度は、これまでの職業体験中心の「実地体験型研修」に加え、「課題解決型研修」を行った。これは実地体験だけでなく、事業所の実際の課題について受講者のグループが解決策や新たな方策を考え、提案する研修である。この「課題解決型研修」を進めるための、プログラムの立案・運営を民間教育事業者に委託して実施した。

「課題解決型研修」・「実地体験型研修」のそれぞれのねらいと視点を次のように設定した。

課題解決型研修

○ねらい

実地体験だけでなく、事業所の課題や社会のニーズについて、考え、議論し、提案する社会体験研修

○視点

- ・千葉市の地域産業、地域経済についての理解を深める。
- ・事業所の特徴を感じながら、実地体験をする。
- ・事業所の理念、取組、課題等について知る。
- ・事業所から提示された課題について、解決策を考え、提案する。
- ・アクティブ・ラーニングの視点を学び、キャリア教育実践へつなげる。

実地体験型研修

○ねらい

働く人の思い、喜び、苦勞などを感じながら、事業所で行われている様々な仕事を実際に体験することを主とする社会体験研修

○視点

- ・事業所の理念、取組について知る。
- ・様々な業務を体験する。
- ・自分のできることを考えて働く。
- ・働く人々とふれあい、思い、喜び、苦勞を知る。
- ・体験を通して学んだことを、キャリア教育実践へつなげる。

(3) 社会体験研修受け入れ先の事業所を増やす

研修の質を均一に高めるために、受け入れ事業所は、教育センターが全受講者に紹介する。そのため受講者数に合わせて、受け入れ事業所を確保する。また、本事業の趣旨を理解し、協力してもらえる企業を新規に増やした。

本年度は、課題解決型研修での研修先は3事業所、実地体験型研修での研修先は、18事業所であった。

【課題解決型研修先】 受講者 34 名

- ・イオン株式会社
- ・千葉市ふるさと農園
- ・JFE スチール株式会社 東日本製鉄所

【実地体験型研修先】 受講者 90 名

- ・株式会社カンドゥージャパン
- ・株式会社千葉ロッテマリーンズ
- ・千葉都市モノレール株式会社
- ・京成バス株式会社長沼営業所
- ・東京ガス株式会社千葉支社
- ・千葉市療育センターふれあいの家
- ・社会福祉法人オリーブの樹 オリーブ亥鼻福祉作業所
- ・社会福祉法人オリーブの樹 オリーブ鎌取福祉作業所
- ・社会福祉法人千葉市社会福祉事業団 千葉市桜木園
- ・千葉市科学館
- ・千葉県立美術館
- ・千葉県立中央博物館
- ・ジェフユナイテッド株式会社
- ・株式会社オークラ千葉ホテル
- ・ホテルポートプラザ千葉
- ・伸和ピアノ株式会社
- ・千葉市民ギャラリー いなげ
- ・福島復興ボランティア

(4) 研修プログラムの立案

研修のねらいに合わせ、全6回の研修プログラムは次のように組み立てた。課題解決型研修の実際については、次項「5 課題解決型研修の実施報告」について述べる。

1回目(6月)	場所：千葉市教育センター
○講義・演習 「キャリア教育実践のための知識と体験を得る」	
	講師：トゥワイス・プラン シニアコーディネーター 西崎敦文
2回目(6月～7月)	場所：各事業所
○事業所との打ち合わせ	
3回目～5回目(夏季休業期間中)	場所：各事業所
○事業所にて実地体験研修をする。	
○事業所の理念や取組、課題について知る。	
○事業所の課題について考える	
6回目(12月)	場所：千葉市教育センター
○講義・演習 「社会体験研修をキャリア教育の実践につなげるために」	
	講師：トゥワイス・プラン シニアコーディネーター 西崎敦文

社会体験研修の、「事前研修」「事後研修」ではキャリア教育について理解を深めると共に、キャリア教育の先行実践例や、授業の手法について、講義や演習を通して学ぶ。事業所での研修では、働く体験をし、働く人とのかかわりから、広い視野で社会を見たり、日々の授業において活用できる教材や、人とのつながりも得たりすることができる。

社会体験研修での学びをキャリア教育の実践につなげよう。

- キャリア教育の必要性や意義について理解する。○これまでのキャリア教育の実践について知る。
- 千葉市の産業や経済の様子を知る。○事業所の人とコミュニケーションをとり、よい関係を築く。
- 働く人々の思いや願いを知る。○初めての仕事を体験することで、自分の新しい一面に気付く。
- 自分にできる仕事を見つけ、進んで働く。
- 事業所が、直面する課題にどのように対応しているかを知る。
- 事業所から提示された課題の解決方法を考える。
- 受講者同士のグループにおいて、お互いの立場を尊重しながら活動する。



教育活動全体を通じてキャリア教育を実施

・各教科 ・特別の教科 道徳 ・外国語活動 ・総合的な学習の時間 ・特別活動

キャリア教育を通して育てる「基礎的・汎用的能力」

- 人間関係形成・社会形成能力
- 自己理解・自己管理能力
- 課題対応能力
- キャリアプランニング能力

(研修で使用したワークシートより抜粋)

5 課題解決型研修の実施報告

(1) 研修先事業所

課題解決型研修は、千葉市内に拠点を持つ「千葉市ふるさと農園」「JFE スチール株式会社 東日本製鉄所」「イオン株式会社」で実施した。本研修では各事業所が実際に直面している課題を受講者が知り、解決策を提案する研修を実施した。

千葉市ふるさと農園

設立：1990年

所在地：千葉市花見川区

事業内容：農業演習や実習を通して千葉市の農業に対する理解を深める活動を行う。

沿革：講習・実習を通して農業に対する理解を深められるよう「市民ふれあいの施設」として整備された。田園風景を残した農業と自然の結びつきを知ることができる施設である。



茅葺屋根の古民家や長屋門・水車小屋を配し、農産加工教室など農業・林業に関する各種教室を開催。

JFE スチール株式会社 東日本製鉄所

設立：2003年4月

本社：東京都千代田区（製鉄所の一つが千葉市中央区）

事業内容：鉄鋼製品・半製品、チタン製品などの生産

理念：JFEグループは、常に世界最高の技術をもって社会に貢献する

沿革：2003年当時国内粗鋼生産量2位のNKK(日本鋼管)と3位の川崎製鉄の統合で誕生。東日本製鉄所(千葉地区)は戦後日本初の銑鋼一貫の臨海製鉄所である。



海外にも事務所を多く持つ世界的事業所。粗鋼生産量、日本2位、世界5位の規模を誇る。

イオン株式会社

設立：1926年9月

本社：千葉市美浜区

事業内容：小売、ディベロッパー、金融、サービスなど

理念：お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献

沿革：1970年に岡田屋、フタギ、シロのローカル事業所3社の提携によって「ジャスコ」が誕生。2001年からは「イオン株式会社」へと社名を変更して更に拠点を増やしている。



300以上のグループ事業所を持つ東証一部の上場事業所。営業収益では日本の小売業の中で1位。

(2) 研修内容

①研修1 (事前研修)

研修1では、社会体験研修の目的や内容の確認とともに、「キャリア教育の実践」につなげる方法についての講義・演習を実施した。講義ではキャリア教育の変遷や事例を解説、演習では事業所での体験研修に向けた準備として、アクティブ・ラーニングの視点を取り入れたワークショップを行った。

テーマ：「中堅教師のキャリアステージに応じた学び①」

～キャリア教育実践のための知識と体験を得る～

講師：トゥワイス・プラン シニアコーディネーター 西崎敦文

受講者はキャリア教育の変遷やアクティブ・ラーニングの視点をもった授業についての解説を聞いた。今、学校教育で求められているキャリア教育とは何かを改めて理解し、社会体験研修で何をどう学んでいくかを確認した。



【講義の概要 (講師 西崎敦文氏の言葉より抜粋)】

キャリア教育をめぐる取組の変遷

情報化やグローバル化といった急激な社会変化に応じて、暗記をして一つの答えを正解できるようにする教育ではなく、実社会に即した、答えのない課題に向き合って創造的な回答を導き出せる人材の育成が求められている。

そのような人材を育成するために、文部科学省は2020年に大学入試改革や新学習指導要領実施を示している。未来を生きる子供たちを育てるために、学校教育ではキャリア教育を推進していく動きが、ますます活発化していく。

アクティブ・ラーニングの視点を持った授業の実践事例

アクティブ・ラーニング (主体的・対話的で深い学び) の視点をもった授業が、キャリア教育を実践するための手法として積極的に取り入れられている。実際にアクティブ・ラーニングの手法を使った授業を実施している実践事例を紹介した。

【演習の概要】

講義の後、「実践を通して体験的に学ぶ」という趣旨のもと、アクティブ・ラーニングの手法を使ったグループワークを体験した。グループを組んで、千葉市に関連する課題の解決に取り組んだ。

a グループづくり (13分)

- ・グループのリーダー、サブリーダーを決めて、グループ名と目標を話し合う。
- ・リーダーがグループ名の由来と意気込みを発表する。

- b 課題の発表(12分)
 - ・千葉市に関連する課題の発表。
「千葉市の経済と産業を調べて、千葉市の魅力があふれ出す寸劇をつくること！」
 - ・グループでブレイン・ストーミングの実施。
- c プランニング(10分)
 - ・アイデアを基に発表をまとめる。
- d 発表(20分)
 - ・1グループ5分で発表、採点を行ってグランプリグループを決める。
- e 振り返り(5分)
 - ・ワークを振り返って気づいたことをグループで共有する。
 - ・サブリーダーから振り返りを全体に発表する。



研修先ごとにグループになる



造紙に付箋を貼ってアイデアを出し合う



千葉市の特産物や名所が次々と登場した発表

②研修2 (オリエンテーション)

夏季休業期間中の3日間、各事業所で実施していく体験研修のスケジュールを確認した。実地体験研修の後、グループで事業所からの課題に挑戦し、プレゼンテーションを実施する課題解決型の研修であることを共通理解した。

③研修3 (仕事体験、事業所見学)

実地体験1日目は、各事業所で仕事体験や、工場見学を実施した。また、担当者から話を聞き、企業理念やCSR活動に理解を深めることもできた。

ふるさと農園での農業体験・・・7月26日(火)

午前中は、ふるさと農園で実施されている人参の種まきや農作物の収穫など農業体験に参加した。午後は、農場施設の見学やふるさと農園の事業などの講義を受けて、ふるさと農園や事業に対する理解を深めた。

午前：人参の種まき、農作物収穫体験

ふるさと農園施設の見学

午後：ふるさと農園についての講義

担当の方への質疑応答と振り返り



種まき体験に参加後、園内施設で千葉市の農業の概要を学ぶ

イオン富田農場での社会貢献活動体験・・・8月4日(木)

午前中は、イオンの社会貢献活動であるイオンチアーズクラブの農業体験に参加した。午後は、歴史ミュージアムの見学を通してイオンの成り立ちなどを学び、会社についての理解を深めた。



午前：イオンの社会貢献活動についての説明

富田農場での農業体験（イオンチアーズクラブ）

午後：イオン本社のイオンの歴史ミュージアムを見学

担当の方への質疑応答と振り返り



チアーズクラブの農業体験に参加。
午後は、本社でイオンの歴史を学んだ

JFE 東日本製鉄所の見学・・・8月22日(月)

午前中は、JFE スチール東日本製鉄所（西宮工場）を見学し、JFE スチールの担当者の方から会社概要や業務内容についての講義を受けた。午後は、台風の影響で中止になったが、最新の研究所の見学が予定されていた。



午前：西宮工場の見学

JFE スチールの会社や仕事についての講義

午後：研究所の見学

担当の方への質疑応答と振り返り



JFE スチールについての講義を受け、
気になったことを担当者に質問した

④研修4（課題の提示と課題解決のためのリサーチ）

1日目の仕事体験、事業所見学を終え、体験を通じて企業について理解を深めた後、2日目午前中は課題を知り、その解決に向けてのブレイン・ストーミングや調査活動を行った。午後は、事業所の担当者へ質問をするなど、さらに調査を進めた後、提案のためのプレゼンテーション資料作りに取りかかった。それぞれの事業所の課題は次のとおりである。

ふるさと農園 「千葉市ふるさと農園を活用した市民が参加したくなる “千葉マルシェ”を企画提案すること！」

「ふるさと農園がさらに千葉市民に活用されるコミュニティになるにはどうすればよいか。」を考える課題が提示された。ふるさと農園の魅力を再発見し、それを市民に還元する方法を考えた。

イオン 「千葉市とイオンが共同して、世界でひとつだけの“オンリーワン都市”になるための理想都市プランを提案すること！」

イオンが今、力を注いでいる「まちづくり」をテーマにした課題が提示され、千葉市の魅力とイオンの取組を関係させながら、理想都市プランを考えた。

JFE 「千葉市の小・中学生がJFEスチールの仕事に憧れて、入社したくなる“鉄のドラマ”を企画すること！」

JFEスチールが今課題としている人材募集についての課題解決に取り組んだ。グループで課題に関するリサーチを行い、事業所担当の方に質問をして、生活に密接に結びついている「鉄」に対する理解を深めた。



農園の魅力伝える動画を撮影する



区ごとの特色を書き出し、都市プランを考える



担当者に何度も質問して企画を練る

⑤研修5（課題解決のプレゼンテーションと振り返り）

3社の企業の方々と全てのグループの受講生が集まって、午前中は企画のブラッシュアップや、プレゼンテーションのリハーサルを行い、午後は事業所担当の方々にプレゼンテーションを実施した。

各事業所の担当者からは、グループごとに内容を評価してもらい、実際に仕事として課題への取組を行う人の視点を学んだ。全員で審査を行い、グランプリグループを決定した。最後は3日間の研修を振り返り、この体験を今後どう生かしていくのかを話し合った。



プレゼンテーションの資料を見直し、より効果的に伝える方法を考えた



事業所の方々が見守る中、最後までこだわり抜いて考えた企画を発表する



グループの発表について、事業所の方が専門的な視点での意見をもらう

【各グループのプレゼンテーションの概要】

ふるさと農園「ふるさと農園グループ」

シルバー層と子育て層をターゲットとして、新しいスタイルの共同体の構築を提案した。「集う」「育てる」「食べる」をコンセプトとしたイベントを考案した。



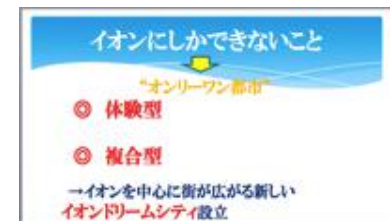
ふるさと農園「千葉氏 890 グループ」

「心ふるえる、楽しさと癒しの空間、野菜のうまさをみんなでエンジョイ」をキャッチコピーに、“自然ウォークラリー”などの様々な体験企画を発表した。



イオン「SEIKO チーム」

千葉市6区それぞれの地域特性を生かした新しい「イオンドリームシティ」を提案した。それぞれの行政区の魅力を生かした特色溢れるイオン施設を企画した。



イオン「レッドイオンチーム」

どの世代も住みたくくなるような理想の街を「安心」「便利」「文化」「自然」「スポーツ」の観点から、市民の声にこたえて、いつまでも住みたくなる街づくりを提案した。



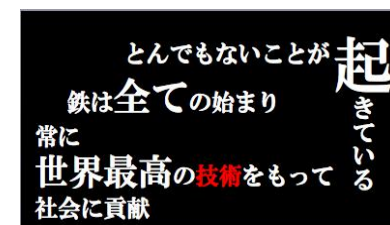
JFE スチール「光る汗チーム」

職場体験を控えた少年が、鉄人戦隊「スチールレンジャー」と出会い、鉄の素晴らしさや働くことの大切さを学んでいくというストーリーをドラマ化して発表した。



JFE スチール「金台福部チーム」

「JFE プライド」をキャッチコピーにして、JFE のキャラクターが登場し、鉄の大切さや JFE スチールでの仕事を紹介する提案をした。



JFE スチール「鉄は熱いうちに打て」

野球少年が、JFE 野球チームのメンバーと出会い、製鉄のカッコよさや JFE スチールの凄さを知っていき、憧れを抱いていくドラマを提案した。



⑥研修6 事後研修（社会体験研修の振り返り）

研修6では、研修全体の振り返りを実施した。講義では、「教師のキャリア教育に対する意識の現状」を確認し、研修で得た経験をどのようにキャリア教育実践に生かすかについて考えた。演習では、グループに分かれて研修で学んだこと、気づいたことを振り返るワークショップを行った。

テーマ：「中堅教師のキャリアステージに応じた学び②」

～社会体験研修をキャリア教育の実践につなげるために～

講師： トウワイス・プラン シニアコーディネーター 西崎敦文

これまでの研修を振り返り、社会体験研修とキャリア教育のつながりを改めて確認した。「課題解決型社会体験研修プログラム」の事例を用いて、アクティブ・ラーニングの視点に立った、キャリア教育実践のポイントについて学んだ。

【講義の概要（講師 西崎敦文氏の言葉より抜粋）】

社会体験研修とキャリア教育

「研修1 事前研修」で行ったアンケート調査によると、本研修受講者は、児童・生徒のキャリア形成のために「人間関係・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」を身につけさせたいと考えていることがわかった。また、ほとんどの受講者が、そのために「社会体験」や「社会人の講演会」を実施したいと回答していた。この回答にもあるようにキャリア教育では実際に体験することが非常に重要である。

今後は、実技や実験を伴う授業のみならず、全ての教科・領域で体験による学びに主眼を置くことが非常に重要になっている。さらに、体験だけで終わらせず、そこで得たことを子供たち同士の協働的な学習を通じて、知識・技能の定着や思考力・判断力・表現力の育成につなげることが大切になってきている。そのための手法の一つが、児童・生徒が主体的・対話的に深い学びをする「アクティブ・ラーニング」である。

今回の課題解決型社会体験研修では、「アクティブ・ラーニング」の手法を用いた研修を実施した。「研修1 事前研修」では、知識を獲得するだけでなく、当事者意識を醸成するためのグループづくりや目標の発表、ワークショップを行った。「研修2～5 体験研修」では、研修先で実際の仕事を体験し、自らの発見をもとに学びを得るための土台を形成し、「研修6 事後研修」では、グループで振り返る中、自分自身が研修で得た学びの定着を図るという手順を踏んでいる。

研修を振り返って

今回の研修のポイントとして、「スモールステップで進める」「課題を出してスタートする」「グループの力を使って課題解決する」の3つを取り上げた。これらのポイントに沿って、課題解決型社会体験研修を実施した。

初日（研修3）は、事業所に出かけて話を聞きながら、理念や特徴、注力している事業などを理解した。体験を基に学んだことで、本格的な課題も「スモールステップ」でスムーズに受け取る準備ができた。2日目（研修4）には、各事業所が実際に今解決したいと考えている課題が提示された。グループが同じ目的に向かって、コミュニケーションを図りながら課題の解決を進めていった。事業所の方も驚くような鋭い質問をするなど、意欲の高い取組であった。3日目（研修5）に、プレゼンテーションを行った。事業所の担当の方々からは、「この短期間で考えたとは思えない、すばらしいプレゼンテーションだった。」「このままこのアイデアを広報活動に使っていきたい。」という感想をいただく程であった。「グループの力を使って課題解決」というポイントについても、グループ内で自然と役割分担をして、効率よく作業を進めることができている素晴らしかった。

【演習の概要】

社会体験研修で体験、実感したことを知識として定着させるために、グループごとに振り返りを実施した。グループで体験を共有することによって、新たな気付きも得ることができた。

振り返りワークショップ

①個人の振り返り(10分)

- ・ 今回の体験で感じたことや気付いたことを書く。

②グループで振り返りをシェア(20分)

- ・ 一人一人が振り返りを発表する。
- ・ 他メンバーの話を聞いて気付いたことはメモを取る。
- ・ リーダーが内容をまとめておく。

③全体に発表(10分)

- ・ リーダーがまとめた意見を発表する。



最初に、社会体験研修とキャリア教育の結びつきについて、全体で再確認する



事業所のグループごとに、話しきれないほどの体験を振り返った



最後は、グループの研修体験や授業での実践例を発表。今後の活用のヒントを得る

6 社会体験研修を生かしたキャリア教育実践事例作成

(1) 事例1：研修先でのCM制作活動を活用した社会科の授業（小学校）

①社会体験研修を生かした授業づくり

本事例は、小学校第5学年社会科「情報化した社会とわたしたちの生活」の単元において、社会体験研修で実際に行った研修内容をもとに、それを活用して授業を行う内容になっている。本年度、課題解決型の研修で作成したコマーシャル（以下CM）やプレゼンテーション資料を教材として扱う。

小単元「情報産業とわたしたちの暮らし」の「つかむ段階」で、児童に、研修で作成したCMと実際のCMとの比較を行う。それぞれのよさや違いについて考えさせた後に、社会体験研修先の企業の方から児童に対し、CM制作の依頼がくる展開となっている。企業で実際に働く人から依頼されることで、児童の課題解決への意欲も高まる。情報産業について理解を深めながら、CMづくりを行った後に、企業の方に児童が制作したCMを講評して頂くことで、社会とのつながりのある学習を行うことができる。

なお、社会体験研修でCMをつくる活動を直接行っていない場合においても、体験した仕事や企業のアピールプランを考えるなどを研修後に行うことで、その内容を授業に活用することが可能である。また、研修先の企業の仕事内容や商品・サービスについて学ぶ研修が行われていれば、それらをアピールする短いCMプランを教師が作成することで、本事例の実践を行うことができる。

②キャリア教育としての意義

キャリア教育では、「基礎的・汎用的能力」の育成が求められている。こうした「基礎的・汎用的能力」の育成は、教科の学習においても関連付けながら扱う必要がある。本事例では、社会科の授業において、社会体験研修で学んだことを教材として活用することで、キャリア教育における「基礎的・汎用的能力」の育成につなげることができる。

本単元では、情報産業の学習に意欲的に取り組めるよう、企業からの依頼であるCMづくりを行う。CMづくりを行うことは、情報の理解・選択・処理等を行う、「課題対応能力」の育成につながる。また、グループで協力・協働して活動することで、相手の意見を聞き、自分の考えを伝える等の「人間関係形成・社会形成能力」が育つ。

③単元計画

本単元「情報化した社会とわたしたちの生活」は、「情報産業とわたしたちの暮らし」、「社会を変える情報」、「情報を生かすわたしたち」の3つの小単元で構成されている。

【小単元「情報産業とわたしたちの暮らし」の目標】

我が国の情報産業や情報化した社会の様子について、コマーシャルの制作活動を行うことで、情報の送り手側と受けて側の両面から捉え、情報の有効な活用が大切であることを考えるようにする。

情報化した社会とわたしたちの生活（全 19 時間扱い）

時	学習活動と内容	指導上の留意点
1	<p>○導入</p> <p>◆テレビ、新聞、雑誌、インターネット、SNS 等、それぞれのメディアの役割と特徴をまとめる。</p>	<p>■現代におけるメディアを取り上げ、情報の入手先の多様性及びその特徴について考え、生活の中での情報の果たす役割について、興味をもてるようにする。</p>
8	<p>○情報産業とわたしたちの暮らし</p> <p>(1) ◆社会体験研修で教師が作成した CM と実際に使われている CM を比較し、違いを話し合う。</p> <p>◆社会体験研修先からの CM 制作の依頼を知る。</p> <p>(1) 小学5年生の多くが、将来 A 社で働きたいと思うようになる CM を作ってください。</p> <p>◆学習問題をつかみ、学習計画を立てる。</p> <p style="text-align: center;">実際のCMづくり（テレビ番組づくり）の様子を調べて、A社の魅力が伝わるようなCMを作ろう。</p> <p>情報産業について調べる</p> <p>(2) ◆テレビ（ニュース）番組の制作について学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・番組ができるまでの過程 ・それぞれの仕事とその役割 ・どのようなことに気をつけているか。 <p>◆CM 作成の手順や工夫を調べる。</p> <p>CMをつくる</p> <p>(1) ◆CM の構成を考える。</p> <p>◆CM づくりを行う企業について調べる。</p> <p>(1) ◆企業の人に「仕事」や「働くこと」について話を聞く。（または、映像）</p> <p>◆絵コンテを制作する。</p> <p>◆絵コンテを使って制作した CM を発表する。CM づくりを依頼してくれた企業の方からコメントを貰う。</p> <p>(1) ◆企業の人からの評価を受けて、情報を発信することについて振り返りや感想を話し合う。</p> <p>◆学習のまとめをする。</p> <p><総合的な学習の時間にて></p> <p>◆絵コンテを基に映像 CM を作る。</p>	<p>■CM にどのような工夫がされているのかを見つけ出す。（ストーリー、一番伝えたいこと、引きつけるための魅力ある演出等）</p> <p>■学習意欲を向上させるため、企業から依頼される形式を取り入れる。（社会体験研修時に企業からの依頼メッセージを映像で撮影しておく。）</p> <p>■送り手側は、見る側のことを常に考えて、番組づくりをしていることに気付けるようにする。</p> <p>■速く、正しく情報を発信する意味や見る側に与える影響について考えさせ、CM づくりに生かせるようにする。</p> <p>■前時までの学習をふまえ、情報の取捨選択をしながら、見る側のことを考えて制作をすすめるよう、事前に確認する。</p> <p>■会社の説明だけでなく、働く人の思いも入るようなCMになるよう、助言する。</p> <p>■電話やインターネット通信等を使用して企業の人から講評を頂くことで、社会とのつながりをもたせる。</p> <p>■情報産業や情報の活用の仕方についてまとめると共に、企業と仕事について扱っているため、キャリア教育の観点でもまとめを行う。</p> <p>■総合的な学習の時間との関連を図り、活動を進める。</p>
5	○社会を変える情報	
5	○情報を生かすわたしたち	

「社会体験研修を生かした授業づくり」のためのワークシート（教師用）

次のワークシートに示すような視点をもって、社会体験研修に参加することで、研修で得たことを教材化することができる。以下は小学校第5学年の社会科の「情報産業とわたしたちの暮らし」の単元にてCMの制作活動を教材化するための視点としての一例である。

企業の魅力について以下のような視点をもって研修に参加することで、企業の魅力について学ぶことができ、その他の教科、単元における教材づくりに役立てることができる。

社会体験研修（教師用）ワークシート		
企業名（		）
	氏名（	）
1 この企業で働きたいと思える企業のアピールポイントを見つける。		
企業のアピールポイント		
1		
2		
3		
その他		
2 企業の人の仕事内容をインタビューする 仕事の魅力についてインタビューを行い、教材を作成する。		
	○仕事の内容（	）
	○仕事の魅力（	）
3 CMづくりとしての教材研究		
魅力的なストーリーの構成	一番伝えたいことは何か	引きつけるための工夫
例) <u>戦隊物等</u>	例) <u>お仕事の楽しさ等</u>	例) <u>トレンド性（現在のトレンドとの関連付け）、ユーモア性（面白いCMにする）等</u>

(2) 事例4 職場の「葛藤」の事例で議論する道德の授業(中学校)

①社会体験研修を生かした授業づくり

社会体験研修の中では、仕事に取り組む社員・職員の実際の仕事や企業の経営方針などを学ぶことがある。その中で、実は一般的な常識とはかけ離れた「職場の常識」を発見することがある。本事例では、それを題材に、価値観の違うもの同士が議論する授業を提案する。

また、「職場の常識」だけでなく、企業活動における直接的・間接的な利害関係を有する者同士が対立する事象や、企業の方針と社員の意識が対立する事象など、判断することが難しい問題に関して、議論のテーマが設定できる。

例えば、以下のようなテーマが想定される。

- ・新入社員は始業時間よりもなるべく早く出勤するべきか。
- ・注文を直接受ける後払い方式を、自動券売機で先払い方式に切り替えるか。
- ・企業の売上に直結しないCSR活動（企業の社会貢献活動）を継続するか、廃止するか。
- ・家族との約束があるのに残業を命じられたらどうするか。

企業の経営上の課題や、個人の労働の問題など、社会体験研修で見聞きしたことや、感じた様々なことが、生徒に話し合わせることができる題材となる。

②キャリア教育としての意義

キャリア教育で育成を目指す「基礎的・汎用的能力」において「人間関係形成・社会形成能力」においては、多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聞いて自分の考えを正確に伝えることができることが想定されている。また、「課題対応能力」としては、仕事をする上で様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力であるとされている。正解が一つであるとは限らない課題の連続である社会の中で、他者の考えを尊重しつつ、自らの意見や状況を整理し、課題を解決する実社会の営みは、道德の授業の題材として扱うことができる。職場体験や職場見学の事前学習として、「職場の常識」や「利害関係の対立」を発見するための授業にもなる。

③学習計画（1時間扱い）

本時では、教師が社会体験研修の中で経験したり、見聞きしたりしている、企業活動や労働における課題（葛藤）を題材に、生徒が意見を考えて議論を行う。正解が一つに決まらない中で、なるべく多くの意見に耳を傾け、比較・検討をすることで、最終的な個人の意思決定をする活動を行う。中学2年生の時点で、学校近隣で職場体験を行うことが予定されている場合は、この授業を職場体験の事前授業として行うことも可能である。職場体験の中で、関わる大人に対して、経験したことのある課題に関する聞き取りを行うようにさせることで、学習を更に深めることができる。職場体験の事後学習として聞き取りをした課題について発表する活動を行うこともできる。

④本時の学習（1時間）

ア ねらい

○企業や事業所に存在する課題（葛藤）について、双方の意見を検討することを通して、他者の考えを尊重しつつ、自らの意見や状況を整理して課題を解決する。

○各生徒が意見を持ち、双方の意見を議論することで意思決定を行う。

イ 展開

時程	学習内容と活動	指導上の留意点	資料
5分	1 社会体験研修の報告を聞く。 ・企業や事業所の仕事をメモする。 ・どんな人がいるのかをメモする	○企業に行った経験や企業の社員が仕事をしている様子を、写真などで紹介する。 ○どんな職場なのか、どんな人がいるのかを説明する。	・PC ・スクリーン ・プロジェクタ
10分	2 本時のねらいをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">働く中で出てくる課題について自分の意見を考えて議論しよう。</div> 3 「葛藤」のテーマをつかむ。 ・個人の意見を決める。	○1つの決まった正解は存在しないことを確認する。 ○議論するテーマを発表する。 ○対立する関係者の主張を紹介する。	・写真 ・スライド ・ワークシート
15分	4 グループで話し合う。 ・個人の意見を共有する。 ・対立する立場でどんな意見が出たのかを、まとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">■早い出社を断るべき（意見例） ・規則で始業時間が決まっている ・1年間にするとすごい長時間 ・朝の時間の使い方は自由なはず ・部長に促して社風を変えるべき</div>	○個人の意見を共有する時には、その根拠とともに発表させる。 ○立場を明確にして意見交換をするように説明する。 ■早い出社に従うべき（意見例） ・先輩に負担はかけられない ・時間をかけて会社に貢献したい ・意義を唱えると雰囲気が悪化する ・9か月だけ我慢すればいい	・ワークシート
15分	5 各グループの意見を発表する。 ・各グループの双方の意見を発表する。 ・ワークシートに意見をメモする。 6 自分の意見をまとめる。 ・各グループの意見を聞いて、自分の意見に変化があれば、ワークシートに記入する。	○二極対立だけで話し合いが進むようであれば、条件付きで考えることもできることを伝える。 ○発表された意見の中で、これまでの議論では出なかった意見があればメモをするように促す。 ○条件付きで意見を考えた場合は、その条件も明記するように伝える。	・ワークシート ・ワークシート
5分	7 まとめ ・最終的な自分の意見を発表する。	○生徒が行う職場体験の事前指導として行う場合は、職場体験終了後に、生徒自身が同じように「葛藤」について取材するように予告する。	

先生が社会体験研修を行った先は

・ 仕事内容

テーマ (例)

あなたは、この会社の新入社員 A です。3 か月の新人研修も終わり、今日から配属先の営業所で仕事を覚えながら働きます。営業所で働く人は 15 人。新入社員の同期は、あなたを含めた 3 人です。

先輩から「新入社員は他の社員や上司よりも早く出社するのが常識だ。」と言われました。始業時間より 40 分早く会社に来なければなりません。ところが、同期の新入社員 B さん、C さんは「始業時間よりも早く出社しなければいけないのはおかしい。あなたも一緒になって、部長に反対意見を言おう。」と持ちかけられました。さて、あなたはどうしますか？

早く出社しなくていい (立場①) の意見

【同期の新入社員 B】

- ・ 就業規則には、働く時間が決められている。
- ・ 朝の時間はゆっくりと過ごしたい。

【同期の新入社員 C】

- ・ 早く来ると、自分の子供を保育園に送れない。

早く出社すべきだ (立場②) の意見

【先輩社員 D】

- ・ 新人に仕事を教えながら、自分の仕事をする。朝のうちに仕事を振り返ってしてもらわないと始業時間を過ぎたら余裕がない。

【先輩社員 E】

- ・ 昔、自分も早く会社に来て生活習慣を作った。
- ・ 朝、新人が他の先輩に元気よく挨拶することで人間関係ができるし、職場の雰囲気も良くなる。



あなたの意見はどちらですか？

その理由を書きましょう。

早く出社しなくていい

グループ内で出た意見をメモしよう。

早く出社しなくていい

グループ内で出た意見をメモしよう。

※早い出社をしなくていい「条件」とは？

※早く出社することに従うべき「条件」とは？



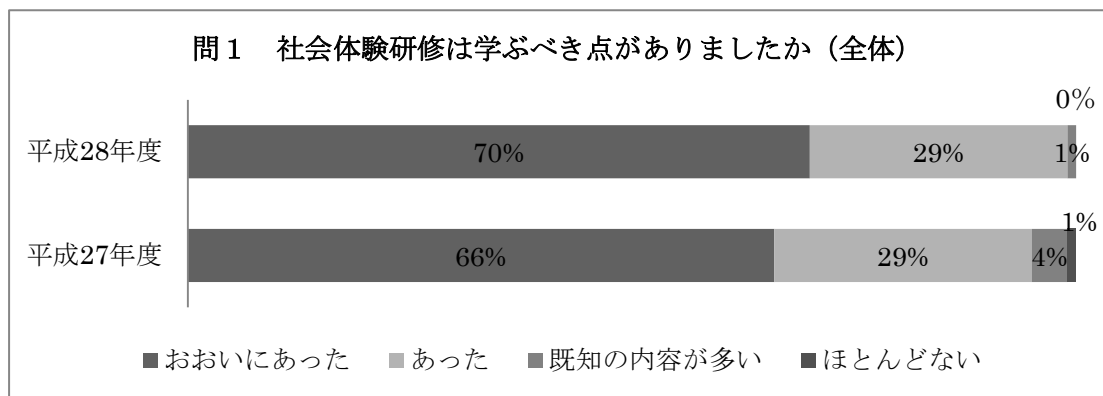
最終的なあなたの意見と、その理由を書きましょう。

7 成果と今後の課題

(1) アンケート結果より

以下は、12月に行われた「社会体験研修6」の際に、受講者124名を対象に実施したアンケート調査の結果である。社会体験研修を通して、個々の受講者が、どのような意識の変容があったのかを「全体」「課題解決型研修受講者」「実地体験型研修受講者」の3つで集計し、結果をまとめた。

①社会体験研修での学び



受講者の声 (課)…課題解決型研修受講者 (実)…実地体験型研修受講者

(課) 「鉄のドラマ」のプレゼンテーションをした研修が印象に残っている。企業の努力を聞き、それを表現することで、さらに理解が深まる体験ができた。また、課題に対してチームで取り組む大切さを学ぶことができた。

(課) 一般的な座学や体験のみでなく、提案型の研修や検討ができたことはとても意味のあるものだった。特に最終日にイオン本社でプレゼンテーションができたことや、時間に限りがある中で、提案をまとめたことは非常に大きな意味があった。

(課) 企業がどのように社会へと働きかけているかを知ることができた。また、課題解決の提示の仕方というのも本日のまとめで教えていただき、大変参考になった。

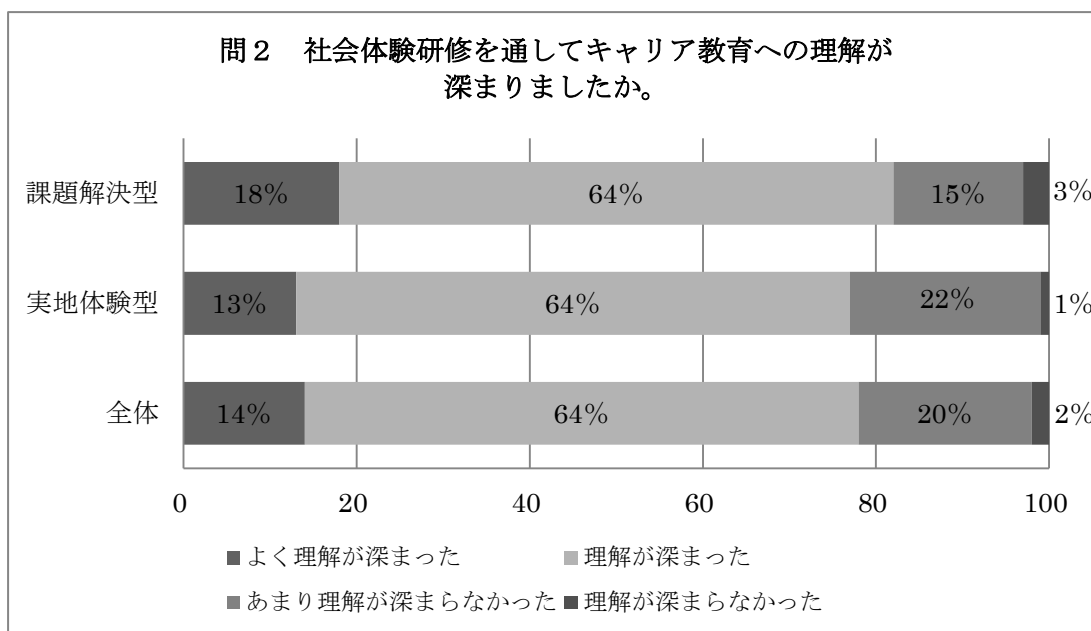
(実) 教員の仕事しかしたことがなかったので、全てが新しい発見だった。公務員とは違う利益につなげなければならない仕事は大変でもあり、やりがいを感じることもできると思った。

(実) 大変充実した3日間だった。特に、(株)伸和ピアノの企業理念や仕事内容について学び、多くの体験を通して世界が広がった気がした。

(実) 県立美術館での社会体験研修は、大変有意義だった。学校現場で生かせる学びが多かった。

問1「社会体験研修は学ぶべき点がありましたか」について、平成27年度と平成28年度を比較すると、「おおいいにあった」「あった」を合わせると、95%から99%と4%上昇している。

②キャリア教育への理解の深まり



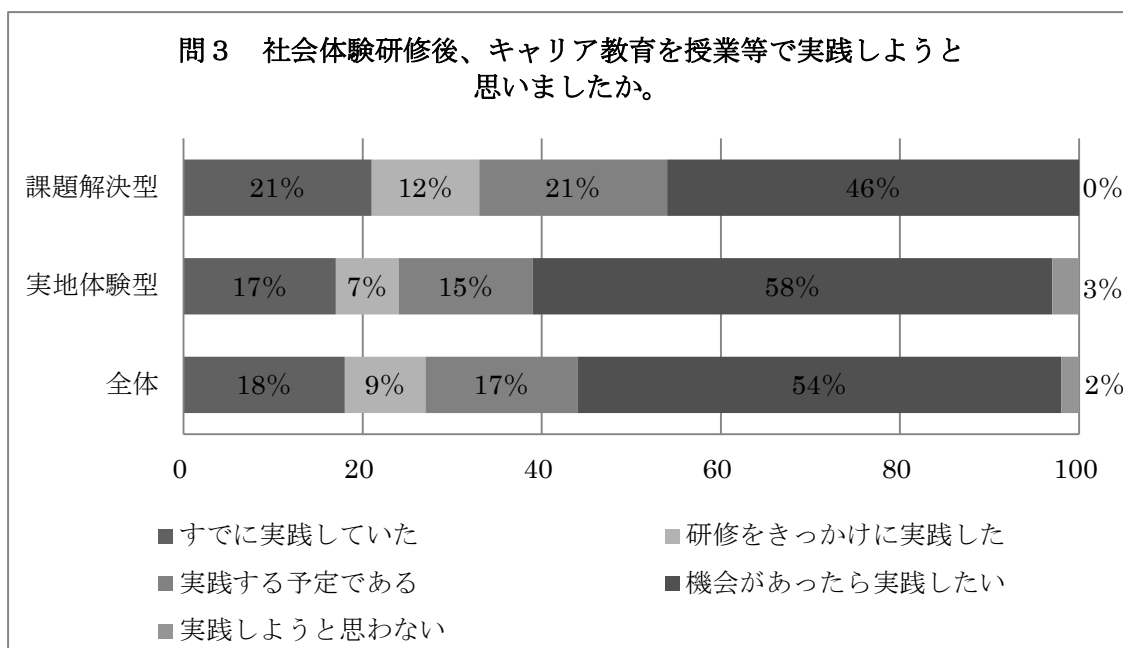
受講者の声 (課)…課題解決型研修受講者 (実)…実地体験型研修受講者

- (課) 主体的に課題を解決していく過程や大切さを学ぶことができ、理解が深まった。
- (課) 課題を解決するために、仕事内容や企業について自分たちで情報収集したり、グループで取り組んだりしたことでキャリア教育の実践の視点が学べた。
- (課) 「なぜ働くのか」ということを考えさせられる研修であり、キャリア教育について勉強したいと思った。
- (実) 実際の体験を通して、キャリア教育実践における留意点を理解することができた。
- (実) 実際に仕事を体験することで、大変さも喜びも感じられると思った。キャリア教育の意義への理解が少し深まった。
- (実) 主体的に物事に関わっていく姿勢を学び、そういったものをキャリア教育に反映させていこうと思った。

問2「社会体験研修を通してキャリア教育への理解は深まりましたか。」については、「よく理解が深まった」「理解が深まった」が全体としては78%、課題解決型は82%、実地体験型は77%で課題解決型研修受講者の方が、全体より4%高く、実地体験型研修より5%高い。

課題解決型研修では、グループで協働的に課題解決をしながら、さらに深く事業所のことを調べたり、改めて事業所の活動の意味等を考えたりすることを通して、理解が深まったのだろう。実地体験型研修では、実際に働く体験や働く人のかかわりを通して、キャリア教育の意義を理解することができたと思われる。さらに理解を深めさせる研修にするためには、事前研修において「キャリア教育とは何か」「キャリア教育の意義や進め方」をより明確に受講者に伝えておくことが大切であろう。

③キャリア教育実践へのつながり



受講者の声

(課) …課題解決型研修受講者 (実) …実地体験型研修受講者

(課) 研修で実際に行った、「課題解決」「グループでの話し合い」を授業で取り入れた。

(課) 「総合的な学習の時間」において課題設定をする時に、研修で学んだことを意識した。

(課) キャリア教育を難しく考えるのではなく、体験を重視した学習を進めていくことが大切なのだと思った。

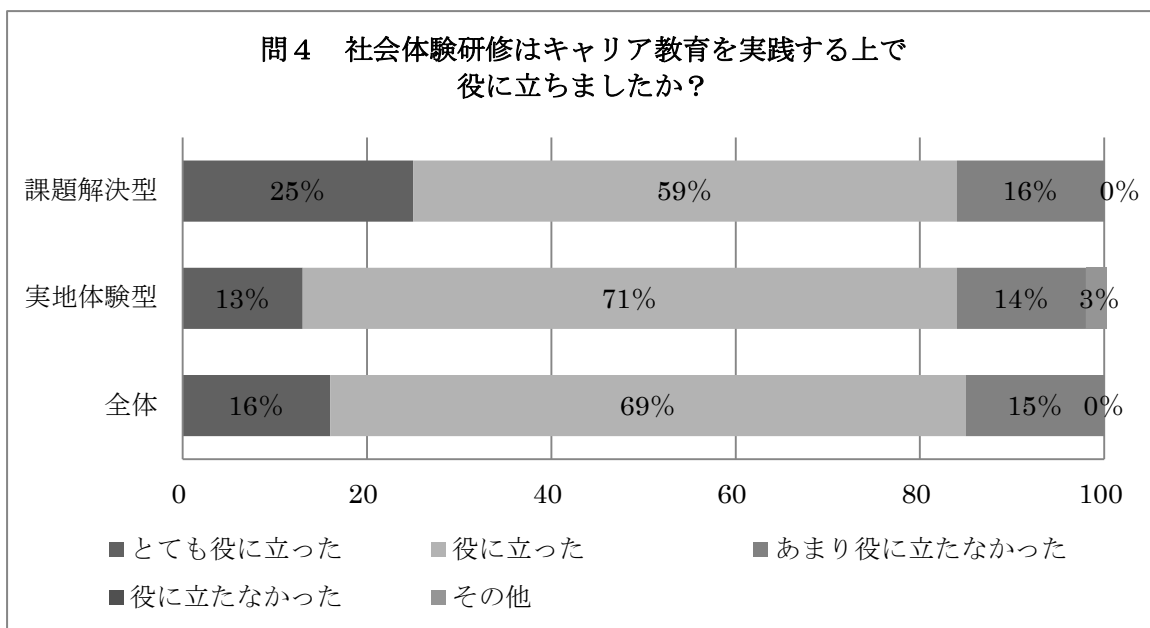
(実) 学級活動で、研修での体験を話した。

(実) 「働く」ということについて考えさせる学習、仕事に対する考え方による討論やプレゼンテーションなどを行いたい。

(実) 福島のボランティアを学んだ、現地の状況、被災者の悩みを伝えたい。

問3「社会体験研修後、キャリア教育を授業等で実践しようと思いましたか。」については、「研修をきっかけに実践した」「実践する予定である」が全体26%、課題解決型研修33%、実地体験型研修22%であり、課題解決型研修受講者の方が、全体より7%、実地体験型研修より11%高い。

課題解決型研修受講者は、社会体験研修で学んだ、課題の提示の仕方やアクティブ・ラーニングの視点など、「課題解決の手法」を授業で実践してみようと思っていることがわかる。キャリア教育の実践に有効なのは、子供たちの主体的な学びであることを実感したからであろう。実地体験型研修受講者は、「自身の体験を授業で伝える」「働く体験を通して得たことをキャリア教育の実践に活用したい」と感じている。働く人の思い、喜び、苦労に実際に触れる研修であったことが伝わってくる。



受講者の声 (課)…課題解決型研修受講者 (実)…実地体験型研修受講者

【肯定的な意見】

(課) 中学校で行っている「職場体験」の振り返りや事前学習をどう工夫するか、という点で役に立った。

(課) 「仕事に従事する方の思いにふれること」がとても大切だと思った。

(実) 実体験があるのとないのでは、子どもたちの前に立つ時に語れる内容が変わってくる。

(実) 社会との関わり、人との関わり、すべてが自分自身を向上させるために必要だということを感じた。

(実) 事後研修でのトゥワイス・リサーチ・インスティテュートの方々のお話で、より理解ができた。

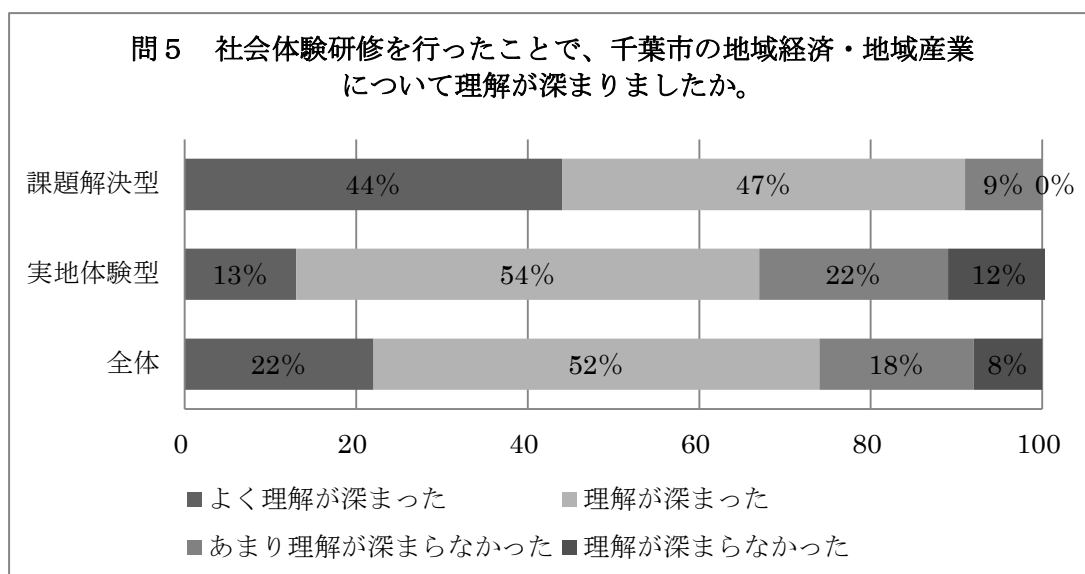
【否定的な意見】

(課) 参考の一つになる部分はあったが、キャリア教育の実践につながるものではなかった。

(実) 社会体験そのものはボランティアとして参加しただけだった。キャリア教育と直接結びつく内容ではなかった。

問4「社会体験研修はキャリア教育を実践する上で役に立ちましたか。」については、「とても役に立った」「役にたった」との回答が、課題解決型研修受講者と実地体験型受講者で同じ84%であった。受講者は、研修で学んだことの中からキャリア教育の実践に生かせることを見つけて、具体的な場面を思い浮かべ、実践につなげようとしていることが伝わってくる。また、事後研修で、委託先の民間教育事業所「トゥワイス・リサーチ・インスティテュート」の講義でよりいっそう、キャリア教育と社会体験研修をつなげることができたようである。

④千葉市の地域経済・産業についての理解の深まり



受講者の声

(課)…課題解決型研修受講者 (実)…実地体験型研修受講者

(課) 課題解決をするためには、千葉市について調べ、知ることが不可欠であった。

(課) 企業の広報活動や、企業の地域に根差した活動について知ることができた。

(実) 研修先事業所は、「千葉市の人々を集める」「活発にさせる」「発信している」ことを知った。

(実) 研修先が1つだけだったので、地域経済・産業についての理解とは言えない。

問5「社会体験研修を行ったことで、千葉市の地域経済・地域産業についての理解は深まりましたか。」については、「よく理解が深まった」「理解が深まった」との回答が、課題解決型研修受講者が91%、実地体験型研修受講者は67%と24%の差があった。その要因として、「課題解決型研修の研修先事業所は、千葉市に密着した企業であったこと」「受講者が解決する課題が、千葉市の特色に関連していたこと」などが、考えられる。

⑤研修の改善点にむけての受講者の意見

課題解決型研修への意見

○2日間も課題解決に時間を使っていたので、体験的な研修の方がよかったと思う。

○体験の時間がとても少ない。「解決する課題」と「体験」のつながりがあまりなかった。課題と体験は密接につながっていたほうがよいと思う。

○キャリア教育と社会体験研修の関連性をもっと早く、詳しく知りたかった。

実地体験型研修への意見

○ボランティアスタッフとしての活動がほとんどであった。もっと会社としての努力や取り組みを学んだり、体験できたりするとよい。

○異業種を経験できたことは、本当によかったと思うので、プレゼンやグループ発表などより、実際の業務を経験できた方がよいと思う。

(3) 成果

- 社会体験研修全体については、受講者の満足度は99%となっており、充実した研修プログラムであったといえる。異業種を体験し、人と出会い、多くのことを感じて学べたこと、事業所の課題を解決する内容は、教師としての成長にもつながり、今後の教育活動に生かせる点も多い研修であったと思われる。
- 民間教育事業者を活用したよい点としては、研修先の事業所との連絡調整、研修当日のファシリテーター、研修に使用する機材等の準備を担当し、運営面が円滑であったことである。また、キャリア教育の実践や、キャリア教育推進のための研修の手法等も提示し、プログラム開発において、おおいに参考になった。
- 「キャリア教育を推進する教員を育てる」という視点においては、課題解決型研修の方が、実地体験型研修よりも、効果的であった。キャリア教育についての理解も深まり、研修後のキャリア教育の実施状況も高かった。グループで課題解決を行う研修から、キャリア教育の実践において大切な、主体的な学びの方法についても実感することができた。

(4) 今後の課題

- 課題解決型研修には、実地体験をもう少し増やしてほしいという受講者の声が多かった。
(実地体験は3日間のうち1日のみであった) 実地体験と課題解決の時間のよりよい配分を考えたプログラムに改善する。

【29年度の社会体験研修プログラム(案)】

1日目(6月14日)	【全体】教育センターにて 講義「キャリア教育の現状 ～社会体験研修につなげるために～」 大学教授
2日目(7月)	事業所での打ち合わせを実施 ・事業所の概要、理念について理解する。 ・体験する業務の内容を知る。
3日目(夏季休業中)	事業所での体験研修(1日中)
4日目(夏季休業中)	事業所での体験研修(AM) 課題についてのリサーチ(PM)
5日目 (8月23日か24日)	【合同研修】 準備(AM) プレゼンテーション(PM)
6日目(8月25日)	【全体】教育センターにて 「社会体験研修の振り返り ～社会体験研修をキャリア教育の実践につなげる～」 民間教育事業者 現場講師 教育センター指導主事
9月～	社会体験研修を生かしたキャリア教育の実践(各自・各校にて) ※民間教育事業者もかかわる。

- 実地体験型研修においては研修先事業所によって、研修内容に差が出ないように、事前に事業所に研修目的や行ってほしいことを伝え、質を高める。
- 社会体験研修で学んだことをキャリア教育の実践に生かせるように、事前のめあてのもたせ方や、事前・事後研修の在り方を模索する。特に、事前研修においては、キャリア教育そのものについて理解を深めるための講義を受けるなど、改善していきたい。
- 民間教育事業者の活用にあたっては、よりよい研修を計画・運営ができるよう、委託業務内容の見直しを図る。また、研修の目的、内容、運営について、共通理解を図って進めていく。
- 今後、受講者が増えると予想される。次年度以降に研修を受け入れてくれる、企業、事業所を拡大していく。その際、よりよい研修ができる企業、事業所であるかを見極めていく。